



ニューヨーク
補習授業校
学校だより

日本語を話す仲間と 日本語で学ぶ補習校

補習校協育



令和8年(2026年)1月15日

第35号

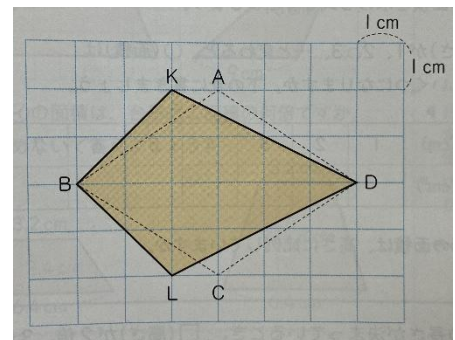
校長 小島 昇

日本語を話す仲間と 日本語で学ぶ土曜日(1/10)



新年の授業が始まりました。W校の5年生の教室では「四角形と三角形の面積」の学習をしていました。平行四辺形や三角形の面積の求め方の学習を終え、この時間はひし形の面積を求める公式をつくりました。

その上で、(右図) ひし形A B C Dの面積の求め方を参考にしたこ形K B L Dの面積の求め方を考えました。ひし形の面積の求め方を理解した子どもたちにとって、この図形の面積を実際に求めることは、それほど難しい課題ではありません。この学級では、どのように「たこ形」の面積を求めたらよいかを個人で考えた後、図形を見せながら考え方を日本語で伝え合っていました。ペアで伝え合った後は、少し大きなグループになって、繰り返し考え方の伝え合いが行われていました。



土曜日に、日本語を話す仲間と一緒に補習校で学ぶ意味をこのような場面で確認することができます。面積の求め方を理解し、面積を求めることができるようになるだけであれば、参考書や問題集を使って個人で学んだり、講義形式の動画を視聴したりすることでも目標を達成することはできます。しかし、そのような学習方法では、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることはできません。

前号の学校だよりで、補習校に期待することが多様化しているとお伝えしましたが、「日本語を学ぶ仲間と 日本語で学ぶ土曜日」を提供していくことは様々なニーズに応える基盤になると考えています。今年も「児童生徒に『めあて』を明確にもたせ『ふりかえり』をさせることで主体的に学ぶ子どもを育てる」「『日本語を話す仲間と日本語で学ぶ』補習授業校の授業としていく」「児童生徒にインプットだけでなく、アウトプットまでさせる」を目指します。